

重点的に取り組んだ活動・内容

項 目	実 践 状 況
<p>1 実践1 【実践活動名】 性的マイノリティに関する研修(教職員)及び 学習(児童)</p>	<p>教職員は職員研修として、さらに児童は道徳科の学習として、「性的マイノリティへの理解を深めるための動画」を視聴し、性的マイノリティについて話し合いを行った。</p> <p>教職員間では、カミングアウトする当事者の話を聞くことを通して、性的マイノリティの方の繊細な気持ちや生きづらさを知り、理解を深めるきっかけとなった。</p> <p>児童間では、身体の性と心の性が一致しない人もいることを知り、性別にとらわれない友人関係を考える機会となった。</p> <hr/> <p>成果</p> <p>教職員間では、アウトティングと情報共有の違いを知り、目的をもって共有することを心がけて、児童の心に寄り添いながら、児童の人権を守っていききたいとの意識が高まった。</p> <p>児童間でも、性別の関係なく、個々の気持ちを尊重し、励ましたり、仲良くしたりしていききたいという気持ちをもつことができた。</p> <hr/> <p>課題</p> <p>気心が知れている小集団の中で生活している本校の児童たちが、来年度の統合により多様な友達と出会った際に、個々の気持ちを尊重した人間関係を築くための実践力を育てる。</p>
<p>2 実践2 【実践活動名】 人権教室 (全児童)</p>	<p>人権月間にちなみ、人権擁護委員を招いて、1年生から6年生の全校児童を対象に「いじめ」という行為を例に、登場人物それぞれの気持ちを考え、他人への思いやりや、いたわりの心などの人権感覚を養うことをねらいとして人権教室を行った。「いじめ」をテーマにしたDVDの視聴を通して、いじめられる側の気持ちや自分がいじめられていると感じたときのSOSの出し方など、場面ごとに考える機会をもった。</p> <hr/> <p>成果</p> <p>悪ふざけが「いじめ」に発展することあることやいじめられて苦しいときに友達や大人に助けを求めることは、自分を守るために大切なことであることを知った。また、いじめがきっかけで「生命」に関わることもあることを知り、「いじめ」の恐さを考えるきっかけとなった。</p> <hr/> <p>課題</p> <p>「いじめ」をテーマとしたDVDの視聴では、「いじめはいけないこと」と理解していたしていたが、実際の生活の中で、自分の心ない言動が相手にとっては「いじめ」と感じることもあることへの認識が足りない。「ふざけ」と「いじめ」の違いを考えさせ、「いじめ」のない学校生活を送れるようにしたい。</p>

